

研究発表会開催通知

(昭和 63 年 4 月 15 日～5 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
文書処理と ヒューマンインタフェース	5 月 9 日(月)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	下記参照
知 識 工 学 と 人 工 知 能	5 月 11 日(水)	10 : 00～17 : 00	同 上	同 上
プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語	5 月 13 日(金)	10 : 00～17 : 00	早 大	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	5 月 13 日(金)	13 : 30～17 : 00	東 工 大	同 上
マイクロコンピュータと ワークステーション	5 月 13 日(金)	14 : 00～17 : 00	保 科 ビ ル	同 上
情 報 シ ス テ ム	5 月 17 日(火)	9 : 30～17 : 00	東 大	同 上
設 計 自 動 化	5 月 17 日(火)	13 : 00～17 : 00	明大(駿河台)	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	5 月 18 日(水)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	5 月 19 日(木)	10 : 30～16 : 00	リ コ ー	同 上
コ ン プ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	5 月 19 日(木)	13 : 00～17 : 00	名 古 屋 大	同 上
マルチメディア通信と分散処理	5 月 20 日(金)	9 : 30～16 : 30	琉 球 大	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	5 月 23 日(月)	10 : 00～17 : 30	上 智 大	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 基 礎 論	5 月 26 日(木) 5 月 27 日(金)	13 : 00～17 : 15 9 : 30～12 : 15	名 古 屋 大	同 上
自 然 言 語 処 理	5 月 27 日(金)	12 : 30～17 : 00	KDD上福岡研	同 上

◆ 第 18 回 文書処理とヒューマンインタフェース研究会 (発表件数：4 件)

(主査：木村 泉，幹事：角田博保，黒須正明，首藤正道)

日 時 昭和 63 年 5 月 9 日 (月) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，JR：浜松町下車，バス：渋谷－東京タワー線東京タワー，渋谷－東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車。Tel. 03 (434) 8211]

議 題 (1) ユーザフレンドリな SDL/GR 入力方法 宗森 純，水野忠則 (三菱電機)
〔概要〕 通信システム仕様記述言語 SDL の図式表現 (SDL/GR) 用に開発した簡易な入力方法について述べる。

(2) べた入力法と分かち入力法の打鍵レベルでの比較評価

角田博保 (電通大・電気通信)

〔概要〕 べた入力と分かち入力の打鍵時間データを採り，コピー打ちと作文打ちでの打鍵速度の比較評価をおこなった。

(3) 文書作成支援ツールとしての KJ エディタ

大岩 元，小山雅庸，河合和久 (豊橋技科大・情報工)

〔概要〕 カード操作による発想支援ツール KJ エディタを開発した。今回は、同システムによる文書作成支援について述べる。

(4) 日本文の読み易さの評価式

建石由佳, 小野芳彦, 山田尚勇 (東大・理)

〔概要〕 技術系の日本語文章の多変量解析を用いた分析と、それにもとづく日本文の読み易さの指標の構成。

◆ 第 58 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 諏訪 基, 幹事: 中島秀之, 西田豊明, 原口 誠)

日 時 昭和 63 年 5 月 11 日 (水) 午前 10 時~午後 5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)
議 題 10: 00~11: 50 (2 件)

(1) ペトリネットによる知識情報伝達モデルとその応用

椎塚久雄, 石塚裕隆 (工学院大・電子工)

〔概要〕 緊急時における人間の知識情報伝達の様子をペトリネットによりモデル化する手法とシミュレーション結果を示す。

(2) 名刺文意味解析システムにおける推論制御機構 石川 孝 (ぺんてる)

〔概要〕 名刺の文字列を氏名・所属などの意味項目に分類するシステムにおける推論制御機構とその実現について報告する。

13: 10~15: 00 (2 件)

(3) 漠然性を含む空間状況解釈のためのポテンシャル極小化アプローチ

山田 篤, 西田豊明, 堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 漠然性を含んだ記述をされた対象世界の空間的状况をポテンシャル極小化によって解釈する手法について述べる。

(4) 高階述語論理を用いた項書換え型計算系と論理型計算系の融合

三浦欽也, 堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 高階節形式論理によって、項書換え型と論理型の両方の計算系を含んだ統一的な計算の枠組みを与え、その処理系について考察する。

15: 10~17: 00 (2 件)

(5) 問題解決システムにおける学習法について

桜井成一郎, 志村正道 (東工大・工)

〔概要〕 与えられた知識を使って、類推の考え方に基づいて新しい知識を獲得する方法について述べる。

(6) フレーム問題に関する考察(2)

—イェール射撃問題をケーススタディとして—

松原 仁, 山本和彦 (電総研)

〔概要〕 フレーム問題を考える上でイェール射撃問題とそれに対する解決策をどのように位置づけるべきかについて論じる。

◆ 第 16 回 プログラミング言語研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 斉藤信男, 幹事: 石畑 清, 寛 捷彦, 徳田雄洋)

日 時 昭和 63 年 5 月 13 日 (金) 午前 10 時~午後 5 時

会 場 早稲田大学 理工学部 51号館 2階 第2・第3会議室
〔新宿区大久保 3-4-1, JR 山手線: 高田馬場または, 新大久保下車, 徒歩約
10分. Tel. 03 (209) 3211〕

議 題 特集: 日本語プログラミング

10:00~12:00 (3件)

(1) 部品化・再利用向き言語 “mCLD” によるプログラミング

小高知宏, 内山明彦 (早大・理工)

〔概要〕 プログラムの部品化・再利用を言語仕様上から支援する言語 “mCLD”
について. 例題をあげて述べる.

(2) C言語の日本語化とその効果 平林雅英 (情報数理研)

〔概要〕 日本語記述が可能なC言語の処理系の開発と日本語化に伴うプログラミ
ング上の効果について述べる.

(3) 日本語 APL 宇土正浩, 佐貫俊幸 (日本 IBM)

〔概要〕 配列を基本とする APL 言語に多バイト文字 (日本語) を取り入れた日
本語 APL の設計・開発仕様について述べる.

13:00~17:00 (8件)

(4) 日本語プログラミング言語 Mindn について

木村 明 (MSA), 片桐 明 (リギーコーポレーション)

〔概要〕 日本語プログラミング言語 Mind の概要と, 日本語プログラミングの実
用性についての報告と考察.

(5) プログラミング言語における日本語化の現状と今後の方向 (総論)

中田育男 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 現在, 日本語など複数バイト文字を各言語で扱えるようにする作業が進
められている. ISO の SC 22, 各言語 WG, 日本の日本語機能専門委員
会などの動向について概説する.

(6) プログラム言語で使う文字コード 和田英一 (東大・工)

〔概要〕 これまでの ASCII のほかにもプログラム言語に使う字種がふえつつあ
り, それらの文字コードをサーベイする.

(7) FORTRAN における日本語化の現状と今後の方向

黒田幸明 (NTT 通研)

〔概要〕 (1) 標準仕様検討経緯, (2) 仕様案の内容と課題, (3) 各社の実現状
況, (4) 国際規格への提案状況について説明する.

(8) COBOL における日本語機能の現状と今後の動向

床分眞一, 今城哲二 (日立)

〔概要〕 COBOL における日本語 (Multi-Byte) 機能のサポートの現状と今後の
標準化動向について述べる.

(9) Cにおける日本語化の現状と今後の方向 猪瀬武久 (日電)

〔概要〕 ANSI X3J11 および J におけるCの日本語化の現状について解説し,
今後の方向と問題点について言及する.

(10) Ada における日本語化の現状と今後の方向 伊集院正 (NTT 通研)

〔概要〕 情報規格調査会 SC 22/AdaWG で検討中のや日本語等の文字処理のた

- めの仕様拡張案について報告する。
(11) Common Lisp における日本語化の現状と今後の方向

元吉文男 (電総研)

〔概要〕 Common Lisp において日本語文字等多バイト文字を 1 バイト文字とまったく区別せずに使用するための方法を示す。

◆ 第 32 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 川合 慧, 幹事: 中嶋正之, 真名垣昌夫, 守屋慎次)

日 時 昭和 63 年 5 月 13 日 (金) 午後 1 時半~5 時

会 場 東京工業大学 百年記念館 第一会議室

〔東京都目黒区大岡山 2-12-1, 目蒲線・大井町線: 大岡山下車, 東京工業大学正門右側, Tel. 03 (726) 1111〕

議 題 (1) 多面体細分割による漸近的曲面設計

中西一浩, 鶴岡信治, 木村文隆, 三宅康二 (三重大・工)

〔概要〕 多面体に面取り処理を反復適用することによって, 円柱面, 自由曲面等に近づけていく手法について報告する。

(2) カード・システムを抽象化した複合グラフとその階層描画法について

三末和男, 杉山公造 (富士通)

〔概要〕 発想支援系の基礎技法として, カード・システムを図的に抽象化した複合グラフの階層的描画法について述べる。

(3) 天空光と鏡面反射を考慮した陰影表示

中前栄八郎, 岡本 敬, 金田和文 (広大・工), 西田友是 (福山大・工)

〔概要〕 天空光により照射された物体の拡散および鏡面反射成分を考慮した陰影表示法について報告する。

(4) PC/AT 環境下での PHIGS インプリメントと C-binding

清水治夫 (キャノン), Salim Abi-Ezzi, Michael Wozny (R. P. I)

〔概要〕 PHIGS を PC/AT 環境で実現する上での内部データ構造, データトラバーサル, C 言語対応について述べる。

(5) Software through Pictures の日本語化

山本修一郎, 外山勝保, 磯田定宏 (NTT 通研)

〔概要〕 米国 IDE 社が開発した図式設計支援システム Software through Pictures の日本語化方式について報告する。

◆ 第 50 回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会 (発表件数: 4 件)

(主査: 若鳥陸夫, 幹事: 岡田義邦, 森本陽二郎, 山田 剛)

日 時 昭和 63 年 5 月 13 日 (金) 午後 2 時~5 時

会 場 情報処理学会 (本部) 保科ビル 2 F 第一会議室

〔東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル, 地下鉄: 日比谷線神谷町下車, 徒歩 7 分。東京タワー方向飯倉交差点を赤羽橋寄りに渡る。39 森ビル (ラフォーレミュージアム) 隣り, 保科ビル 2 F, Tel. 03 (505) 0505〕

議 題 (1) マウスを用いたユーザの認知情報処理過程の研究

池本浩幸, 春木和仁, 高野よそ子 (東芝)

〔概要〕 ユーザの認知情報処理過程解明のためにマウスを使ってカーソルを目標に移動する実験を実施し考察を行った。

(2) マルチワークステーション化機能 大高謙二 (三菱電機)

〔概要〕 当社のワークステーションであるマルチワークステーションの概要とそのシステム化機能について発表する。

(3) 状態管理によるマルチビューポート表示制御方式

渡辺範人, 福島 忠, 富田次男, 後藤正宏 (日立)

〔概要〕 エンジニアリングワークステーションにおけるマルチビューポートの表示制御について述べる。

(4) アイコニック言語 Dialog. I による CAD 用マン-マシンインタフェース
田代秀一, 岡田義邦 (電総研)

〔概要〕 アイコニック言語 Dialog. I の仕様及び CAD 用マン-マシンインタフェースへの適用について述べる。

◆ 第 19 回 情報システム研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 伊吹公夫, 幹事: 岩丸良明, 鷹野 澄, 槻木公一)

日 時 昭和 63 年 5 月 17 日 (火) 午前 9 時半～午後 5 時

会 場 東京大学 山上会館 (本郷構内, 三四郎池の辺)

〔東京都文京区本郷 7-3-1, 地下鉄: 丸の内線本郷三丁目下車徒歩 10 分. 千代田線湯島または根津下車, バス: 東大正門前または東大赤門前下車.

Tel. 03 (818) 3008)

特集: 要求定義およびシステム設計方法論

9: 30~12: 10 (3 件)

議 題 (1) 利用部門主導システム設計方法論 松平和也 (PRIDE)

〔概要〕 今後のシステム開発は利用部門主導でなければ成功できない. その実践例を豊富に示し, 具体的設計方法論を議論する。

(2) METHOD/1 藤本邦明, 程 近智 (アーサーアンダーセン)

〔概要〕 AA 社のシステム化方法論 METHOD/1 を使用し, いかに関営戦略をシステム化戦略に結び付けるかを述べる。

(3) JSD 大野尙郎 (JBA)

〔概要〕 システム開発におけるあいまいな機能要求を仕様化する前にモデル化し明示的に記述するための手法 JSD について述べる。

13: 10~17: 00 (5 件)

(4) 情報システムの計画に関する体系的アプローチ 竹内浩二 (日本 IBM)

〔概要〕 情報システムの計画に関する IBM の技法「BSP」を中心に, 最近の補強点も含めて方法論を概説する。

(5) RSDM 手島歩三 (日本ユニシス)

〔概要〕 利用部門が責任と主体性をもってシステム化を推進するための設計手法 RSDM について述べる。

(6) システム設計の方法論—システム要求分析技法 C-NAP II—

永田 譲 (富士通)

〔概要〕 利用者の業務ニーズを抽出・定義し、システム概念を設計するための技法：C-NAP IIを紹介する。

(7) 日本電気(株)における上工程支援技術

石井慎一郎, 入交晃一, 中田修二 (日電)

〔概要〕 日本電気(株)における、要求定義からシステム設計の工程に対する有効な開発手法、ツールについて紹介する。

(8) HIPACE システム分析技法

津田道夫 (日立)

〔概要〕 システム開発方法論 HIPACE におけるデータ中心型の業務システム分析技法を紹介する。

◆ 第 42 回 設計自動化研究会

(発表件数：7 件)

(主査：平川和之, 幹事：井上隆秀, 川西 宏, 神戸尚志)

日 時 昭和 63 年 5 月 17 日 (火) 午後 1 時～5 時

会 場 明治大学 駿河台校舎 大学院第一会議室

〔東京都千代田区神田駿河台 1-1, JR 中央線・総武線, 地下鉄：丸の内線・千代田線お茶の水下車, 徒歩 5 分. Tel. 03 (296) 4545〕

議 題 (1) 専用プロセッサ設計における制御系の検討

竹沢寿幸, 池永 剛, 白井克彦 (早大・理工)

〔概要〕 専用プロセッサ設計における制御系合成法とそのためのコード生成系の構成法について検討したので報告する。

(2) ルールベースに基づく論理照合方法

植田雅彦 (松下電器)

〔概要〕 ルールベースに基づく論理認識と論理式自動照合を用いた回路検証手法について報告する。

(3) MOSFET 論理回路のスイッチレベル故障シミュレーションの一方法。

岩田忠久, 古賀義亮 (防衛大・電気工)

〔概要〕 MOSFET 論理回路スイッチレベルの故障回路モデル。入力信号から出力信号を求めるシミュレーション。

(4) MULTES/IS: 不完全スキャン方式自動力テスト生成システム。

荻原拓治, 室井克信, 猿山秀一, 米森玄一, 村井真一 (三菱電機)

〔概要〕 一般同期回路及びスキャン回路のテストデータを自動生成するシステムの構成, 機能, 評価結果等について述べる。

(5) ランダムパターンを用いた RAM の組み込み自己テスト

山田輝彦, 中嶋 宏, 和田 久 (明大・工)

〔概要〕 線形フィードバックシフトレジスタを用いた RAM の組み込み自己テストの有効性を計算機実験により明らかにする。

(6) 回路図の素子の自動再配置の手法 伊藤 誠, 下井伸浩 (山梨大・工)

〔概要〕 図面の素子の位置を自動配置するための手法について検討する。

(7) 畳み込み手法を用いた PLA の分割 井口幸洋, 向殿政男 (明大・工)

〔概要〕 畳み込み手法を用いて PLA を分割する。畳み込み・分割を繰り返し適用して分割後の PLA の面積を減らす。

◆ 第 59 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 花田收悦, 幹事: 落水浩一郎, 紫合 治, 春原 猛)

日 時 昭和 63 年 5 月 18 日 (水) 午後 1 時半 ~ 5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 研修 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 第 10 回ソフトウェア工学国際会議 (10 th ICSE) 報告

落水浩一郎 (静岡大・工)

〔概要〕 1988 年 4 月 11 日 ~ 4 月 15 日にシンガポールで開催された 10 th ICSE について報告する。

(2) イベント駆動に基づく情報提示支援系について

大戸英隆, 辻野嘉宏, 都倉信樹 (阪大・基礎工)

〔概要〕 イベント駆動による情報提示の関係を可視化し, 非熟練者にも提示が容易な環境を提供する支援系の試作・評価。

(3) SDL ビジュアルウォークスルーシミュレータ

宗森 純, 田中功一, 佐藤文明, 勝山光太郎, 水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕 画面上レビュー, SDL/PR 流レビュー, 紙面上レビューができるシミュレータを開発した。

(4) ソフトウェアの「日本語仕様書」作成支援 大石東作 (電総研)

〔概要〕 人手による記述された仕様書の部分や, 仕様を付加したプログラムから, 仕様とプログラムを統合したものを生成。

◆ 第 65 回 データベース・システム研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 牧之内顕文, 幹事: 大里博志, 清木 康, 佐藤和洋)

日 時 昭和 63 年 5 月 19 日 (木) 午前 10 時半 ~ 午後 4 時半

会 場 リコー ソフトウェア研究所

〔東京都文京区小石川 1-1-17, とみん日生春日町ビル (7 F), 地下鉄: 丸の内線後楽園下車, 徒歩 5 分, 三田線春日下午車, 水道橋方面出口より徒歩 1 分。〕

Tel. 03 (815) 7261 (代表)〕

議 題 10:30~12:30 (3 件)

(1) DBMS 上のスキーマ診断システム GSC

黒瀬博靖, 安次富伸治 (リコー)

〔概要〕 DBMS 上に推論システムとその上のスキーマ診断システムを試作し, マニュアルの知識をルールベースに搭載した。

(2) データベース管理システム G-BASE 分散化のためのデータ管理方式

平田昭夫, 飯沢篤志 (リコー)

〔概要〕 拡張リレーショナルモデルを使用したデータベース管理システム G-BASE の分散化実現のためのデータ管理方式

(3) 距離空間データモデル MeSOD に基づいたオブジェクト指向データベース管理システムの設計 田淵仁浩, 村岡洋一 (早大・理工)

〔概要〕 先に提案した距離空間データモデル MeSOD に基づいたオブジェクト指向 DBMS の実現方法について述べる。

13:30~16:30 (4 件)

(4) 実体-関連モデルのためのデータ定義言語と従属性の扱いについて

宇田川佳久, 石川 洋, 市川照久, 伊藤光一, 西川正文 (三菱電機)
〔概要〕 実体-関連モデルのデータ定義言語を設計した. 本文では, この言語の機能と従属性の扱い方について述べる.

(5) 画像データベースに適した MMI の検討

小塚雅之, 上原宏敏, 西川 浩, 青木則夫 (松下電器)

〔概要〕 画像の持つ意味情報とその画像内の特定領域とを対応付けて管理することにより検索 MMI を改善する方式の提案.

(6) 動的な版の選択を行う 1 版先読みスケジューラ

木庭 淳 (神戸商科大・商経)

〔概要〕 先読みスケジューラに関して, 版を選択することで単版方式より並行処理能力を高めた 1 版方式を提案する.

(7) 関係演算の効率的プログラムへの変換技法—証明図を用いる変換技法

中山秀明 (リコー)

〔概要〕 関係代数の集合演算を処理する技法として, ある論理体系の証明図の変換技法を用いるものを提案する.

◆ 第 54 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 鳥脇純一郎, 幹事: 大田友一, 田島譲二)

日 時 昭 和 63 年 5 月 19 日 (木) 午後 1 時 ~ 5 時半
会 場 名古屋大学 大型計算機センター 4 F 演習室
〔名古屋市千種区不老町, JR: 名古屋より地下鉄: 東山線(藤ヶ丘行)本山下車, 南へ徒歩 10 分. Tel. 052 (781) 5111 ex. 3308, 但し, 当日は ex. 6501〕
議 題 13:00~16:30

(1) ビデオレートラベリングプロセッサ

太田善之, 古明地正俊, 後藤敏行, 吉田真澄 (富士通研)

〔概要〕 ビデオレートで 256 個の物体を分離できるラベリングプロセッサのアーキテクチャと実験例について報告する.

(2) 調和振動子モデルに基づく画像照合

川上 肇 (日電)

〔概要〕 位置と周波数の情報をバランスして含む調和振動子の波動関数群に基づく変形画像パタンの照合法を示す.

(3) ステレオ対応探索アルゴリズムの有機的統合

渡辺正規, 大田友一, 池田克夫 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 異なる特徴を持つ複数のステレオ対応探索アルゴリズムを, モジュール間通信を用いて統合する枠組みを開発した.

(4) 画像処理エキスパートシステム IMPRESS における特徴点抽出手順自動構成法の実現

野村 浩, 鳥脇純一郎 (名大・工), 長谷川純一 (中京大・教養)

〔概要〕 抽出したい特徴点 (群) の位置だけが知らされたとき, それらの最適な抽出手順を自動構成する方法について述べる.

(5) ソリッドモデルと画像の定性的および定量的照合

小泉正彦 (松下電器), 富田文明 (電総研)

〔概要〕 画像中の物体を定性的特徴を使って発見し, その位置・姿勢を定量的特

徴によって決定する手法について述べる。

16:30~17:30

(6) 見学：名古屋大学 工学部 情報工学 鳥脇研究室

*研究会終了後、電子情報通信学会 PRU と共催の懇親会を行います。

◆ 第37回 マルチメディア通信と分散処理研究会 (発表件数：12件)

(主査：松下 温，幹事：浦野義頼，山崎清明，若山博文)

日時 昭和63年5月20日(金) 午前9時半~午後4時半

会場 琉球大学 工学部

(沖縄県西原町字千原1番地，那覇空港よりバス：那覇バスターミナル下車(10分)，那覇バスターミナルからバス：琉球大学行き(30分)。Tel. 09889(5)2221~9)

議題 9:30~11:30 (4件)

(1) セッションシミュレータによる通信ソフトウェアの開発

勝山光太郎，中川路哲男，宮内直人，水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕セッションシミュレータを利用したOSI上位層通信ソフトウェアの開発方法について報告する。

(2) OSI規格CCRの実現

中川路哲男，宮内直人，勝山光太郎，水野忠則，(三菱電機)

〔概要〕OSIの応用層プロトコルであるCCRを実現し，実装上の問題点を明らかにした。

(3) DTAMの標準とその応用 浦野義頼，中尾康二 (KDD)

〔概要〕CCITTにおけるDTAMの標準化動向とともに，各種通信サービスへの応用について述べる。

(4) スロットを用いたループネットのパケット伝送特性

照屋 健 (琉球大)，白鳥則郎，野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕スロットを用いたループネットワークにおける網のスループット，パケット棄却率，伝送遅延特性等について論ずる。

特集：オフィスシステムと分散処理

12:30~16:30 (8件)

(5) オフィス・システムにおけるハンドライティングの応用

野田晴義，北村浩三，フィン・トン・ハン，

広瀬直樹，仁野平義則 (日本IBM)

〔概要〕タブレット入力による手書き情報をワープロやリアルタイム/メール通信へ組み込んだシステムについて述べる。

(6) LOTOSのグラフィカル表現に関する一考察

高橋 薫，白鳥則郎，野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕ISO標準の言語であるLOTOSに対するグラフィカル表現の構文および意味を考察する。

(7) LAN環境に適したサービスベース・システムの構成と実装

何 千 山，田中英彦 (東大・工)

〔概要〕LANで接続された計算機に存在する資源を統一的に管理するサービスベースシステムを紹介する。

- (8) 高速秘密鍵暗号方式の LAN 適用に関する考察 清水明宏 (NTT 通研)
 [概要] 高速マルチメディア LAN 環境への秘密鍵暗号方式の適用に関して, メディア種別, レイヤを考慮して論じる.
- (9) コミュニケーションネットワークシステムの知識型設計支援について
 木下哲男 (沖電気), 白鳥則郎 (東北大・通研), 菅原研次 (千葉工大・電子工)
 [概要] コミュニケーションネットワークシステムのトータルな設計を支援するため, 知識を用いた設計方法論とその支援環境について考察する.
- (10) Prolog トランザクションの並行実行
 滝沢 誠, 宮島勝己 (電機大・理工)
 [概要] 複数の DBS に対するトランザクションを, Prolog で記述し, これを並行実行する方式を述べる.
- (11) オブジェクトモデルのためのアトミックトランザクション
 中島達夫, 所真理雄 (慶大・理工)
 [概要] アトミックトランザクションは分散システムでの信頼性を向上させるため必要不可欠なものである. 本論文では, オブジェクトのセマンティックを利用して並列度を向上させるアトミックトランザクションメカニズムを提案する.
- (12) トーラス結合コンピュータ上での分枝限定アルゴリズム
 川口 剛, 真栄田保, 喜屋武盛基 (琉球大・工)
 [概要] トーラス結合コンピュータ上での分枝限定アルゴリズムを提案し, シミュレーションによる評価結果を述べる.

◆ 第 1 回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 野崎昭弘, 幹事: 今井 浩, 中村勝洋, 西関隆夫)

- 日 時 昭和 63 年 5 月 23 日 (月) 午前 10 時~午後 5 時半
- 会 場 上智大学 図書館 L812 号室
 [東京都千代田区紀尾井町 7-1, 地下鉄: 丸の内線四谷下車または, JR 中央線: 四谷下車, 徒歩 3 分. Tel. 03 (238) 4123]
- 議 題 10: 00~12: 00 (3 件)
- (1) 特別講演: 計算誤差を考慮した幾何的アルゴリズム
 伊理正夫, 杉原厚吉 (東大・工)
 [概要] 計算に誤差があっても転ばないアルゴリズムの概念を提唱し, ポロノイ図を例としてその存在と有用性を示す.
- (2) 移動する点集合の Voronoi 図の変化 徳山 豪 (日本 IBM)
 [概要] 固定した点集合 S と, 平行移動する点集合 $M(t)$ の和集合のポロノイ図 $V(t)$ の時間変化を捉える問題を考察する.
- (3) ドットパターンを回転するアルゴリズム 中森真理雄 (農工大・工)
 [概要] 計算機のメモリ内に表現された $n \times n$ のドットパターンを回転するアルゴリズムについて群論的構造も含めて述べる.
- 13: 00~17: 30 (8 件)
- (4) Rectilinear Drawing of a Graph on a Plane with the Minimum Number of Line Segments
 梶谷洋司, 高橋俊彦 (東工大・工)

- 〔概要〕 次数 4 以下, 点位置固定グラフを, 各枝高々 4, 平均 3 以下の直交線分で描画する $O(|E|)$ アルゴリズムを与える.
- (5) Algorithms for Finding Steiner Forests in Planar Graphs
鈴木 均, 赤間長浩, 西関隆夫 (東北大・工)
- 〔概要〕 平面グラフの 2 つの面の周に端子があるときに各ネットのすべての端子を結ぶ点素な木を求める効率的アルゴリズムを示す.
- (6) 勢力圏上の最適化による LP の一解法 鈴木誠道 (上智大・理工)
- 〔概要〕 最小値 z^* が既知の LP を $C^t x \geq z^*$ なる半空間の勢力圏上の最大化問題に直し, ニュートン様の方法で解を求める.
- (7) Packing, Covering and Partitioning Problems with Strongly Unimodular Constraint Matrices Y. Crama, P. L. Hammer, 茨木俊秀 (京大・工)
- 〔概要〕 係数行列が強ユニモジュラである 0-1 最適化問題に対し, 多項式時間アルゴリズムを与える.
- (8) How to Measure the Complexity of Organized Systems
岡本龍明 (NTT 通研)
- 〔概要〕 組織化された系の複雑度を測る尺度を提案し, そのいくつかの性質及び応用について述べる.
- (9) 交代式符号における最尤復号と誤り検出について
三浦晋示, 中村勝洋 (日電)
- 〔概要〕 広範囲な誤り訂正符号を含む交代式符号の見直しと, 既存の復号法の位置付けを明確にする.
- (10) The Chain Argument and Time Lower Bounds for Sorting on a Mesh-Connected Model Y. Han and Y. Igarashi (Univ. of Kentucky)
- 〔概要〕 網結合モデル上で n^2 個をソートするのに要する計算時間の下界は $2.2247n$ であることを示す.
- (11) 特別講演: Recent Trends in Computational Geometry (予稿無し)
D. Avis (McGill Univ.)

〔概要〕 計算幾何学の最近の動向について概説する.

* 研究会終了後, 懇親会を上智会館で開催いたします(会費 4,000 円程度). 参加希望の方は時前の申込みが必要です.

連絡先: 〒102 千代田区紀尾井町 7-1

上智大学 理工学部 機械工学 浅野孝夫 Tel. 03(238)4123

◆ 第 25 回 ソフトウェア基礎論研究会

(主査: 佐藤雅彦, 幹事: 柴山悦也, 田中二郎, 萩野達也)

日 時 昭和 63 年 5 月 26 日 (木) 午後 1 時~5 時 15 分
5 月 27 日 (金) 午前 9 時半~午後 12 時 15 分

会 場 名古屋大学 工学部 8 号館 2 階 情報工学科 大学院 講義室
〔名古屋市千種区不老町, 地下鉄: 東山線本山下車徒歩 15 分.
Tel. 052 (781) 5111〕

* 今回の研究会は電子情報通信学会(コンピュータシオン研究会, ソフトウェアサイエンス研究会)との共催で行われます. 詳細は次号 (5 月号) もしくは電子情報通信学会誌 4

月号に掲載されますのでご了承ください。
* 研究会終了後、懇親会を行います。

◆ 第 66 回 自然言語処理研究会

(発表件数：5 件)

(主査：田中穂積，幹事：田中裕一，徳永健伸，内藤昭三)

日 時 昭和 63 年 5 月 27 日 (金) 午前 12 時半～午後 5 時

会 場 KDD 上福岡研究所 大会議室

[埼玉県上福岡市大原 2-1-15, 東武東上線：上福岡 (北口) 下車, 三井銀行の左の両歩道つきの道入る, スクランブル交差点に至りやや左転, 500 m.

Tel. 0492 (66) 7381]

- 議 題 (1) 日本語の慣用的表現について一語の非標準的用法からのアプローチ
首藤公昭, 吉村賢治, 武内美津乃, 津田健蔵 (福岡大・工)
[概要] 日本語における慣用句などの特殊表現の全体像を提示し, 単語の標準・非標準用法の境界づけの問題を論じる.
- (2) 自然言語の意味処理用辞書の構成法
堺 和宏, 徳永健伸, 奥村 学, 田中穂積 (東工大・工)
[概要] 自然言語の意味処理用辞書を概念辞書と概念対応辞書の 2 層から構成することを提案し, その有効性を述べる.
- (3) 語形成に基づく形態素解析 佐野 洋 (東芝総研)
[概要] 語基と接辞に分析の単位をおく形態素解析について.
- (4) ラティス形言語データに対応可能なパーザー
榊 博史, 松本一則, 谷戸文廣 (KDD)
[概要] 音声理解システムの中間結果のようなラティス形言語データに対応して動作可能な自然言語パーザー.
- (5) 露日機械翻訳の研究
岡本哲也 (電通大・電気通信), 吉見毅彦 (シャープ)
田中まづる, 中野まり子 (国際データシステム)
[概要] 情報処理に関する露語の抄録誌を資料として, 形態分析, 構文解析, 訳文生成と実験結果について述べる.
- * 研究会終了後, 簡単な懇親会を行います。

◆ グラフィクスと CAD 研究会

集中研究集会「ステレオグラフィクスの新しい展開」論文募集

グラフィクスと CAD 研究会では, 研究者・技術者相互間における質の高い集中的な討議と情報交換を目的とする活動として, 標記集中研究集会を企画しました。この集会は, 選択されたテーマについて参加者全員が発表と討論を集中的におこない, そのテーマについての結論あるいは見通しを得るために開くものです。今回はテーマとして「ステレオグラフィクスの新しい展開」を選びました。

ステレオグラフィクスは古くから立体画像や立体映像を見て楽しむものとして利用されてきました。最近ではハードウェアも発展し, 数々の応用が進められています。そして, ユーザインタフェースの面から, 3次元形状を直感的に理解できるものとして, さまざまな研究が進められています。

今回は, 特にコンピュータを用いて作成した二つの画像を利用した立体視に関する研究を中心に討論したいと思います。

内容としては、立体視の生理学的考察、立体形状生成のためのユーザインタフェース、見やすい立体視図の表示方法、立体視用ハードウェア、さらに、医学・機械・建築・分子・教育・アニメーション・コンピュータビジョンなどへの応用・実用研究などがあげられます。研究発表に際して、ハードウェアの実演や研究成果の実演もできるようにするために現在検討中です。奮ってご応募してください。

記

日 時：昭和 63 年 8 月 25 日（木）午後 1 時から 6 時

8 月 26 日（金）午前 9 時から午後 4 時

会 場：浜名湖保養所 浜名荘（予定）

（新幹線浜松、豊橋乗換、東海道線で弁天島駅下車）

申込締切：昭和 63 年 5 月 25 日（水）

申込方法：研究会発表申込用紙を利用する。実演、機器の持込みを希望する方は機器名を明記してください。

原稿締切：昭和 63 年 7 月 25 日（月）

（各自で 25 部作成し、学会研究会係へ送付する）

参加費：10,000 円

参加者数：25 名程度に限定する。

問合せ先：担当委員 近藤邦雄 東京工芸大学電子工学科 Tel. 0462 (41) 0454

主 査 川合 慧 東京大学理学部情報科学科 Tel. 03 (812) 2111 (内 4118)

「コンピュータアーキテクチャ」シンポジウム開催について

日 時 昭和 63 年 5 月 17 日（火）～18 日（水）

場 所 機械振興会館ホール（地下 2 階）

参加費 会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円
（論文集のみ 3,500 円，送料 400 円）

申込締切 昭和 63 年 4 月 25 日（月）（プログラムおよび申込書は前号にあります。）

パネル討論のパネリストが下記の方に変更になりました。

モデレータ 石井 治（日本工大）

パネリスト 阿江 忠（広島大）

谷田貝豊彦（筑波大）

淀川 英司（A T R）

「利用者指向の情報システム～情報システムの設計と構築～」

シンポジウム開催について

情報システムの開発については、種々の観点から、多くの方法論が提唱されてきました。従来は、情報システム開発工程面から見ると、詳細設計ないしプログラミング、テストのフェーズを対象とした、いわゆる後工程の部分に関するものが中心となっていました。しかし、情報システムの計画、分析、概要の設計などについては、工程の初期の段階にあるというばかりでなく、その視点もアプローチも技法も質的に異なります。

本シンポジウムでは、情報システムの計画・分析・設計などに関する方法論や、プロジェクトマネジメント、および関連する事項について、その動向、手法など、幅広い立場から討論することを目的としています。奮ってご参加ください。

日 時 昭和 63 年 6 月 24 日 (金) 9:30～17:30
25 日 (土) 9:30～13:00

場 所 機械振興会館 研修 1 号室

参加費 正会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生会員 1,500 円
(論文集のみ 3,500 円, 送料 400 円)

懇親会 昭和 63 年 6 月 24 日 (金) のシンポジウム終了後、約 1 時間の極く軽い懇親会開催を予定しています。ご参加ください。(懇親会費 1,000 円)

申込締切 昭和 63 年 6 月 6 日 (月) (定員 110 名に達し次第締切ります。)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第 1 日 (6 月 24 日 (金))

開会の辞 (9:30～9:40)

伊吹 公夫 (東京工大)

招待講演 (9:40～10:30)

- 情報システム部門の問題意識

伊藤 正雄 (新日鉄情報通信システム)

セッション 1 (10:40～12:45)

座長: 岩丸 良明 (三井銀総研)

- 利用者の情報要求を把握すのためのモデル化技法 SIAM

ソムジャリー・タカハシ (慶応大大学院), 浦 昭二 (慶応大)

- 抽象化モデルから具象化モデルの分析に関する一考察

杉本 尚子 (東京システム開発)

- 情報システム工学方法論 PRIDE～利用者の利用者による

利用者のための情報システムの構築に向けて～

桑野 恭二 (PRIDE)

- システム統合化の方法について

手島 歩三 (日本ユニシス)

- ジャクソンシステム開発法 (JSD) とその支援系

加藤 潤三 (日本ユニシス)

— 昼食 (12:45～13:45) —

セッション 2 (13:45～15:25)

座長: 西原 良一 (日本ユニシス)

- 住民基本台帳システムの開発とその人間的側面

～社会システムにおける利用者とは～

下司 英機 (名古屋市熱田区役所)

- SE のおかす 10 の誤ち～SE の目指す方向～

小林 利臣 (東レシステムセンター)

- IE (インフォメーションエンジニア) の養成について

～利用者指向の情報システムを構築できる人材の養成～

河村 一樹 (日本電子専門学校)

- 中小企業に於ける情報システム開発の課題とプロフェッショナルサービス

須田 信明 (須田システム事務所)

— 休憩 (15:25～15:40) —

パネル討論 (15:40~17:30)

司会: 松谷 泰行 (新日鉄情報通信サービス)

- 望まれる SE 像

パネリスト 魚木 五夫 (産能大), 板倉 稔 (富士通),
高島 輝久 (三井銀総研), 山口 拓 (CCL)

懇親会 (17:40~約1時間) 同会場にて, 極く簡単に……

第2日 (6月25日(土))

セッション3 (9:30~11:10)

座長: 槻木 公一 (鉄道総研)

- ソフトウェア基本設計のための図式エディタシステム

大岩 元, 河合 和久, 塩見 彰睦, 竹田 尚彦 (豊橋技科大)

- 統一的なデータ操作を可能にする編集処理機能のアーキテクチャ

渡辺 豊英, 小笠原達男, 吉田 雄二, 福村 晃夫 (名大)

- ビジネス情報システムの利用者の受けとめ方と構築方法

会田 邦夫 (産能短大), 米川 清 (三井情報開発)

- 情報システムに対する Multi-Project スケジューリングについて

大前 義次, 金 炳奎 (茨城大)

—休憩 (11:10~11:25)—

セッション4 (11:25~12:55)

座長: 鷹野 澄 (東大)

- ユーザ指向型データベース高次利用システムについて~その概念設計にあたって~

木村 龍英, 石部 保, 長田 孝治 (日本総合技術研究所),

守屋 慎次 (東京電機大), 中井 浩 (常磐大)

- 図書館情報システムの設計

神沼 靖子 (帝京技科大)

- システム監査の一実施方法~統制マトリックス法の提案~

高橋 光裕, 坂内 広蔵 (電力中研経済研究所)

閉会 (13:00)

「利用者指向の情報システム～情報システムの設計と構築～」シンポジウム

参加申込書

昭和 63 年 月 日

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

○論文集のみ (3,500 円, 送料 400 円) 冊

○懇親会参加費 1,000 円 (6 月 24 日 (金) 17:40~約 1 時間, 同会場)

○送金方法

_____ 円を _____ 月 _____ 日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)。

a. 現金書留 (送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 シンポジウム係)

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945	富士銀行虎ノ門支店 993632
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608	三井銀行本店 4298739
住友銀行東京公務部 10899	三和銀行虎ノ門東京公務部 21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会	

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通
請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください (この用紙のコピーで可)。

「グラフィクスと CAD」シンポジウム論文募集

グラフィクスと CAD の研究開発は近年ますます盛んとなり、基礎、応用の両面において、多くの興味深い話題を提供しています。当学会では、昭和 58 年から計 5 回標記シンポジウムを開催し、多数の研究者、技術者の参加をえて、有意義な成果を得ることができました。本年度も以下のような要領で標記シンポジウムを開催いたします。

グラフィクスと CAD の基礎、応用、ハードウェア、ソフトウェアの全般にわたり、これまでの成果の発表から、新しい手法の提案、今後の展望、先端技術を深く追求するものに至るまで、十分な意見交換や議論の種となるような、先駆的な論文の応募をお願いいたします。

特に今回は、マン・マシン・インタラクションに関連した論文を歓迎します。

日 時 昭和 63 年 10 月 25 日(火)～26 日(水) 9:00～18:00

場 所 機械振興会館大ホール(地下 2 階)

トピックス (主要なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれらに限りません。)

- グラフィクスの基礎/表示技術, リアリズムの追求, グラフィクス入力, データ構造とデータベース, マン・マシン・インタラクション
- グラフィクス・システム/グラフィクス言語とソフトウェア, グラフィクス・デバイスとワークステーション, システムのモデリング, ラスター・グラフィクス, 標準化
- グラフィクスの応用/アニメーションとアート, ビジネス・グラフィクス, 文書や画像の処理, 応用事例
- CAD/設計方法論, 形状モデリング, 図面の入力と処理, エンジニアリング・データベース, インテリジェント CAD, システム構成法, 応用事例

実施方法

- (1) 完成された研究論文のみでなく、問題提起、新しい試み、提案など、いろいろな性格の論文を歓迎する。
- (2) 発表論文件数は 16 件程度とし、1 件当りの発表時間は討論を含めて 30 分程度とする。
- (3) 論文概要(和文 A 4 判用紙 400 字程度、連絡先等明記のこと)により、採否を決定する。
- (4) 採択されたものは、本論文(本学会研究会原稿用紙にて、6～12 枚程度、和文)を提出していただきます。
- (5) 採択された論文は、昭和 64 年度の研究賞の対象となります。
- (6) スケジュール

論文概要締切 6 月 30 日(木)

採択論文決定、通知 7 月下旬

本論文締切 9 月 16 日(金)

- (7) なお、論文の応募状況により、発表論文や発表時間の調整を行わせていただくことがあります。

申 込 先 情報処理学会 グラフィクスと CAD シンポジウム係

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

昭和 63 年度研究会登録と論文抄録について

昭和 63 年度の研究会は、現在の 18 研究会に新設の「コンピュータと教育」および「アルゴリズム」の 2 研究会を加え、**20 研究会**でスタートします。

また、本年 4 月から研究会およびシンポジウムで発表される論文の**和文抄録**を、学術情報センター(所長 猪瀬 博)の「**学会発表データベース(第一系)**」に提供することになりました。

著者の方々には、ご負担をおかけいたしますが、貴重な論文を広く知らせることになりますので、是非とも**登録原稿データシート**の作成にご協力いただくようお願いいたします。

なお、英文抄録には、昭和 61 年度から JICST に登録させていただいております。

昭和 63 年度研究賞の表彰について

研究賞は、本学会の研究会および研究会主催シンポジウムにおける研究発表のうちから特に優秀な論文を選び、その発表者に贈られるものです。受賞者は該当論文の**登壇発表者である本学会員とします。年齢制限はありません。**この賞は、研究会活動活性化の施策に基づき、62 年度から新設されました。本賞の選考は、表彰規程、研究賞受賞候補者手続きおよび研究賞推薦内規に基づき、調査研究運営委員会(委員長 猪瀬 博)が選定委員会となって行います。本年度表彰対象の**9 研究会**(前年の 18 研究会を奇数組と偶数組に分け、**本年度は偶数組**)の主査から推薦された計 9 編の優れた論文について、慎重な審議を行い、受賞候補者として推薦のうえ、理事会(昭和 63 年 7 月)の承認をえて決定されます。なお、表彰は全国大会(後期)開会式の席上、会長から表彰状、賞牌、賞金が授与されます。

『『マイクロコンピュータとワークステーション』による 卓上出版とネットワーク』シンポジウム論文募集

マイクロコンピュータとワークステーション研究会では急発展する LSI 化計算機の応用を次の切り口でシンポジウムを開き、現状認識することは意義あることと考えます。論文をふるってお寄せ下さい。

日 時 昭和 63 年 11 月 15 日(火) 10:00~17:00

場 所 機械振興会館大ホール(地下 2 階)

テ ー マ (1) 卓上出版 (2) ネットワーク(閉路系から開放系まで)
(3) パネルディスカッション

申し込み締切 4 月 30 日

問合せ先 若鳥(日本ユニシス, 03(585)4111(内線 3326))

岡田(電総研, 0298(54)5457)

森本(東芝, 044(511)2111(内線 2489))

山田(早大, 03(209)3211(内線 3418))

昭和 63 年度研究会のお知らせ

昭和 63 年度は、下記のとおり **20 研究会 (新設 * 2 研究会)** で行います。

- 年間をとおして参加の場合は登録をお願いします。(ただし、**本学会員に限る。**)
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 円 1,000 (学生 円 500) をいただきます。(ただし、部数に制限があります。)

研 究 会 名	○主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
1 自然言語処理	○田中穂積 田中裕一 徳永健伸 内藤昭三	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話理解, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2 データベース・システム	○牧之内顕文 大里博志 清木康 佐藤和洋	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB マシン, アーキテクチャ, マルチメディア DB, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB, 知識ベース, インタフェース
3 知識工学と人工知能	○諏訪基 中島秀之 西田豊明 原口 誠	問題解決, 推論, 探索, 類推, 学習, 認知過程 (思考, 記憶, 神経回路網), 認知モデル, 知識表現, 知識ベース, 知識獲得, エキスパートシステム, パターン理解, 自然言語理解, AI アーキテクチャ, 応用人工知能
4 記号処理	○中西正和 井田昌之 小川貴英 小谷善行	記号処理言語と処理系, 記号処理の理論と応用 (数式処理, 言語処理, ゲーム, 知識ベース, 論理プログラミング, ラムダ算術, 関数型言語など), 記号処理アーキテクチャ, 記号処理の技法
5 ソフトウェア工学	○花田收悦 落水浩一郎 紫合治 春原 猛	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, ソフト生産用エキスパートシステム, 管理, メトリックス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6 マイクロコンピュータとワークステーション (マイクロコンピュータ)	○若鳥陸夫 岡田 義邦 森本陽二郎 山田 剛	マイクロコンピュータの構成, 操作系及び応用を基本とするが, 特に EWS (エンジニアリングワークステーション) とビジネス WS の研究に重点を置く
7 計算機アーキテクチャ	○田中英彦 喜連川 優 長谷川隆三 横田 実	計算機システムの設計・機械・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列アーキテクチャ
8 オペレーティング・システム	○亀田壽夫 川島幸之助 黒沢隆洋 村松 洋	OS の基礎・構造論, 人間工学的側面, プログラミング環境, 分散・並列処理 OS, システム性能評価, 信頼性, 関連するコンピュータシステムの諸問題
9 コンピュータビジョン	○鳥腦純一郎 大田友二 田島讓二	視覚から入力される画像や物体などに対する情報処理研究の発表の場であり, これを通じて我が国における研究の向上とその育成, 並びに, 研究者間の交流を推進する. 具体的な研究範囲は, 画像処理一般, ロボットビジョン, 視覚系モデル, 物体認識, 動画像解析, 画像データベースである.
10 設計自動化	○平川和之 井上隆秀 川西宏志 神戸尚志	LSI/VLSI・プリント板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, シリコンコンパイラ, 設計データベース, 知識ベース CAD, 設計検証, テスト容易設計, テスト評価

研究会名		○主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
11	マルチメディア通信と分散処理	○松下 温 浦野義頼 山崎晴明 若山博文	マルチメディアによる情報通信・通信ネットワークの構築技術とその応用・機能分散および負荷分散など分散処理システムの設計と運用技術
12	文書処理とヒューマンインタフェース	○木村 泉 角田博保 黒須正道 首藤正道	1. 計算機システムのヒューマンインタフェースとその評価 2. 思考メカニズムと認知モデル 3. 日本語入力方式 4. 文書処理 5. OA とのかかわり
13	グラフィクスと CAD	○川合 慧 中嶋 正之 真名垣昌夫 守屋 慎次	グラフィクス ソフトウェア/ハードウェア, グラフィクス言語, 標準化, 図形処理と表示のアルゴリズム, 形状処理, 表示技術, アニメーション, ユーザインタフェース, 図形データベース, 図面の認識と理解, ワークステーション, CAD/CAM, AI の CAD への応用
14	数値解析	○名取 亮 関口智嗣 野寺隆成 福井義成	1. 数値計算の基本アルゴリズム 2. ベクトル計算機による超大型計算 3. 並列計算機による高速計算 4. 数式処理, 知識情報処理と数値計算の融合 5. ハードウェア, 言語への提言
15	ソフトウェア基礎論	○佐藤雅彦 柴山悦也 田中二郎 萩野達也	1. ソフトウェアの理論的基礎 (仕様記述, 並行・分散処理, 拡張論理など) 2. 計算モデル (論理型, 関数型, オブジェクト指向等) 3. プログラミングの基礎 (自動合成と変換, デバッギング等)
16	情報システム	○伊吹公夫 岩丸良明 鷹野 澄 槻木公一	情報システム (OIS, MIS, 情報サービスなど) の分析・設計・構築・利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17	プログラミング言語	○斉藤信男 石畑 清 寛 捷彦 徳田雄洋	1. プログラミング言語の基礎理論 (構文論, 意味論, メタ言語) 2. プログラミング概念の形式的記述 (データ構造論, 並行処理論, プログラムの検証, 言語設計) 3. 言語処理系の理論と実際 (構文解析, コード生成, 最適化, コンパイラコンパイラ, 解釈系, 言語向きマシン) 4. プログラミング支援環境 (テキスト編集系, 構文向き編集系, デバッガユーザインタフェース, 文書化)
18	情報学基礎	○藤原 讓 有川節夫 岩野和生 中村史朗	1. データ知識整備; 記述, 表現, 識別, 評価, 蓄積など 2. データ知識流通; 媒体, 変換, 標準化, 分類など 3. データ知識の基礎理論; 管理・処理方式, 組織化, 推論, モデリングなど
19	* コンピュータと教育	○有山正孝 雨宮幸雄 大槻説乎 竹谷 誠	1. 知的教育システム (①知的要素技術の基礎研究, ②知的教育システム開発の実践的研究, ③知的インタフェース) 2. 情報処理教育 (①カリキュラム開発, ②教育技法)
20	* アルゴリズム	○野崎昭弘 今井 浩 中村勝洋 西関隆夫	1. グラフ, ネットワーク, VLSI などに関する組合せアルゴリズム 2. 計算幾何学と計算代数学 3. 暗号, 符号などの数論的アルゴリズム 4. 確率アルゴリズム, 近似アルゴリズム 5. 並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム, ハードウェアアルゴリズム 6. データ構造 7. 計算複雑さの理論

昭和 年 月 日

昭和 63 年度研究会（新規）登録申込書

- (フリガナ)
 ○ 会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____
 ○ 勤務先名・所属 _____ Tel. _____
 所在地 (〒 _____) _____
 ○ 資料送付先 (上記勤務先以外の場合のみ記入)
 (〒 _____) _____

(ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること)

(*新設)

申込み	研究会名	登録費	申込み	研究会名	登録費
	自然言語処理	3,000円		マルチメディア通信と分散処理	3,000円
	データベース・システム	3,000円		文書処理とヒューマンインタフェース	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		グラフィクスと CAD	3,000円
	記号処理	2,500円		数値解析	2,500円
	ソフトウェア工学	3,000円		ソフトウェア基礎論	3,000円
	マイクロコンピュータとワークステーション	2,500円		情報システム	3,000円
	計算機アーキテクチャ	3,000円		プログラミング言語	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		情報学基礎	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円		* コンピュータと教育	2,500円
	設計自動化	3,000円		* アルゴリズム	2,500円

○ 登録費 (年間) 2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件 合計 _____ 円也

○ 次のいずれかの方法でご送金ください。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。

なお、会社名などで送金の場合は、別途必ず個人名を事務局までお知らせください。

- 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。 現金持参
 郵便払込：口座番号 東京 5-83484 (払込用紙に希望研究会名を記入のこと。)
 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店 (普) No. 1013945

○ 払込み日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

○ 情報処理学会の請求書 (通), 見積書 (通), 納品書 (通) が必要です。

* 登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください (62年度に登録された方は使用できません。)
- 2) 62年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「昭和63年度研究会の登録について (お願い)」を送付いたします (3月上旬)。
- 3) 登録は本学会員に限ります。各研究会登録費は年間上表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受け付けとします。おそくとも5月末日までにご登録ください。6月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おきください。

(社)情報処理学会 研究会係 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03(505)0505

コンピュータと教育研究会発足のお知らせ

コンピュータと教育とのかかわりには、コンピュータないし情報処理技術そのものの教育と、教育にコンピュータを利用する問題の二つの側面がある。

最近のコンピュータと情報処理技術の進歩は、教育へのコンピュータ利用の急速な拡大と普及をもたらした。しかし従来の型の CAI, CMI においても、情報処理技術の立場からの支援を必要とする部分がおおく残されている。さらに近年、知識工学・教育工学の進歩とあいまって、知的 CAI の方法が新たな研究課題として注目されている。

一方、情報化の進展にともない、情報処理技術者の供給不足が一つの社会問題となっており、また一般のコンピュータ利用者に対する教育とコンピュータ リテラシについても関心がたかまっている。

これらの問題の重要性と、近年本会の大会等において関連テーマの研究発表が増加している事実を考慮して、新しい研究会を発足させることとなった。多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

◆ 目 標

1. 情報処理技術・知識工学・ニューメディア技術と教育工学との接点を重視し、教育へのコンピュータ利用の新しい方法ならびにシステム開発の技法の研究に寄与すること。
2. わが国の情報処理技術の基礎を支える専門技術者・研究者の育成から情報社会の基盤を形成するコンピュータ リテラシの普及に至る幅広い教育の問題について現状の分析とカリキュラム開発、教授法の研究に寄与し、併せて情報の交換を行うこと。

◆ 主要な研究分野

1. 教育におけるコンピュータ利用。特に知的 CAI, 教育現場に適合したコンピュータのハードウェア, ソフトウェア, 言語, 教材開発支援ツール等。
2. 情報処理教育の諸問題。学校教育・企業内教育・再教育・生涯教育等におけるカリキュラム, 教材開発技法, 教授法等。

◆ 提 案 者 (五十音順)

雨宮幸雄 (東京計算サービス)	有山正孝 (電通大)	飯塚宏紀 (富士通)
井上謙蔵 (東理大)	魚住 董 (富士通)	牛島和夫 (九 大)
浦 昭二 (慶 大)	江村潤朗 (日本 IBM)	大岩 元 (豊橋技科大)
大槻説乎 (九工大)	川合 慧 (東 大)	倉田政彦 (日 電)
斎藤忠夫 (東 大)	佐藤隆博 (日 電)	椎野 努 (沖電気)
高橋延匡 (東京農工大)	武市正人 (東 大)	豊田順一 (阪 大)
長尾 真 (京 大)	中西正和 (慶 大)	西村敏男 (筑波大)
花岡 菖 (三菱電機)	一松 信 (京 大)	真木世之 (東海大)
松谷泰行 (日鐵コンピュータシステム)	三浦大亮 (東レエンジニアリング)	
御牧 義 (電通大)	山本米雄 (徳島大)	山本欣子 (情開協)
米田信夫 (東 大)		

アルゴリズム研究会発足のお知らせ

アルゴリズムの研究は古くはユークリッドの互除法など数学と共に始まったとあってよく、計算機科学の分野で最も古い歴史がある。アルゴリズムは問題解決の手続きを与えるもので、計算機ソフトウェアばかりでなくハードウェアにとって基本となる重要な要素である。このようにアルゴリズムは計算機科学研究の一つの中心的テーマであり、この分野には多くの研究課題が残されている。多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

◆ 目 標

1. アルゴリズムの課題を明らかにし、効率よいアルゴリズムの開発や解析、理論の確立に寄与すること。
2. アルゴリズムに関する情報の交換や研究交流を行うこと。

◆ 主要な研究分野

1. グラフ、ネットワーク、VLSI などに関する組み合わせアルゴリズム
2. 計算幾何学と計算代数学
3. 暗号、符号などの数論的アルゴリズム
4. 確率アルゴリズム、近似アルゴリズム
5. 並列アルゴリズム、分散アルゴリズム、ハードウェアアルゴリズム
6. データ構造
7. 計算複雑さの理論

◆ 提 案 者(五十音順)

五十嵐善英(群馬大)	稲垣 康善(名 大)	茨木 俊秀(京 大)
今宮 淳美(山梨大)	伊理 正夫(東 大)	岩垂 好裕(日電)
大附 辰夫(早 大)	梶谷 洋司(東工大)	菅 忠義(学習院)
上林 弥彦(九 大)	小泉 寿男(三菱電機)	小林孝次郎(東工大)
小山 謙二(N T T)	斎藤 信男(慶 大)	斎藤 伸自(東北大)
渋谷 政昭(慶 大)	鈴木 則久(日本 IBM)	谷口 健一(阪 大)
富田 悦次(電通大)	中森真理雄(農工大)	西関 隆夫(東北大)
野口 正一(東北大)	野崎 昭弘(I C U)	野下 浩平(中央大)
浜田 穂積(日 立)	韓 ^{ハン} 太 ^テ 舜 ^{スン} (専修大)	一松 信(京 大)
二木 厚吉(電総研)	横森 貴(富士通)	

◆ 研究発表会開催予定（6月～9月）

(研究会名)

(開催日・会場)

自然言語処理	7月22日(金) 神戸大 9月22日(木) 東工大
データベース・システム	7月22日(金) 愛媛大 9月22日(木) KDD研
知識工学と人工知能	7月7日(木)・8日(金) 琉球大 9月21日(水)・22日(木) 機・6F-67, B3-2
記号処理	6月 名古屋 9月 青学大
ソフトウェア工学	6月22日(水) 機・B3-2 7月27日(水) 機・B3-2 9月14日(水) 関西
マイクロコンピュータ とワークステーション	6月28日(火) 機・B3-9 9月27日(火) 機・B3-2
計算機アーキテクチャ	7月7日(木) 青森 9月16日(金) 機・B3-9
オペレーティング・システム	6月17日(金) 機・6F-67 9月9日(金) 機・6F-65
コンピュータビジョン	7月21日(木) 機・B3-2 9月29日(木) 東北大
設計自動化	7月12日(火) 機・B3-2
マルチメディア通信と分散処理	7月14日(木) 機・6F-65 9月16日(金) 機・6F-65
文書処理とヒューマン インタフェース	7月15日(金) 機・B3-1 9月8日(木) 機・B3-2
グラフィクスとCAD	7月22日(金) 岩手大 8月25日(木)・26日(金)…集中研究会 9月29日(木) 機・B3-研1
数値解析	7月8日(金) 機・B3-2
ソフトウェア基礎論	
情報システム	9月20日(火) 慶大
プログラミング言語	7月15日(金) 機・B3-2
情報学基礎	6月27日(月) 機・B3-2 9月16日(金) 機・6F-67
コンピュータと教育	7月14日(木) 機・B3-2
アルゴリズム	7月25日(月) 機・6F-65 9月22日(木) 阪大
注) 機 - 機械振興会館	
* 各研究会に発表申込希望者は開催の3カ月前までに研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。	

昭和 年 月 日

研究会発表申込書

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会		
発表希望の 研究会開催日	昭和 年 月 日 ()		
タイトル			
発表者名・所属 (連名者を含む)			
概要 (50字以内)			
原稿用紙送付先住所	〒 —	Tel. —	— (内線)
氏名			

昭和 年 月 日受付

研究会名	資料 No.	開催日	幹事送付済み	その他
		昭和 年 月 日		

昭和 63 年度第 29 回 通常総会の開催について

昭和 63 年度通常総会を下記によって開催いたします。ぜひご出席ください。

なお、総会の案内状は、正会員各位に別途郵送いたしますので、ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

日 時	昭和 63 年 5 月 28 日 (土) 15:30~17:00
会 場	機械振興会館ホール (地下 2 階)
総会次第	1. 会長のあいさつ 2. 昭和 62 年度事業報告および決算報告 3. 昭和 63 年度事業計画および予算審議 4. 昭和 62 年度功績賞の発表と表彰 5. 昭和 62 年度論文賞の発表と表彰 6. 新役員の選定 7. その他

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ (無料) を行います。(会場 地下 3 階 2 号室) 会員が一堂に会し、直接にお話しできる得難い機会ですので、皆さまのご出席をお待ちしております。

学会誌送本先の住所等の変更届について (お願い)

年度の終りから始めにかけては異動期で、会員の住所や所属の変更が殺到いたします。事務処理の誤りを防ぎ能率化するため、勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙 (本号末尾に添付) にて氏名、会員番号を付し、早速にご連絡ください。なお、異動の受付は毎月 20 日に締切り、翌月号から変更いたします。21 日以降受付分の変更は翌々月号からとなります。

論文誌、欧文誌の購読のおすすめ

論文誌、欧文誌の 63 年度からのご購読をおすすめいたします。2 月号に綴込みの申込書により、早速にお申込みください。

情報処理学会 第 37 回 全国大会実施要領

情報処理学会第 37 回全国大会（昭和 63 年後期）を次の要領で開催します。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

今回から講演発表申込みは本論文で行い、論文締切後、ただちにプログラム編成委員会を開催し、プログラム編成を行うことになりました。

このため、講演申込、原稿用紙の請求、論文提出、講演日時のお知らせなどの方法が変更になっております。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しください。 一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 昭和 63 年 9 月 12 日(月)、13 日(火)、14 日(水)

会場 立命館大学（京都市北区等持院北町 56-1）

日程一覧

1. 講演発表用原稿用紙等の請求

学会誌本号（Vol. 29, No. 4）掲載の請求書に記入して、応募規程 IV. 1 の申込方法により請求してください。

2. 原稿用紙等の送付

請求書を 3 月 15 日(火)、3 月 31 日(木)、4 月 25 日(月) に締切り、それぞれ締切った分について事務局から、「講演発表申込書」、「論文原稿用紙」等をお送りします。

3. 講演論文等の提出

講演論文（本原稿）、講演論文コピー 1 部（B 5 判）、「講演発表申込書」等を一括して **6 月 15 日(水)** までに、学会事務局に必着するようご提出ください。応募規程 IV. 2 参照。締切りに遅れますと発表できなくなりますので、特にご注意ください。

4. プログラム編成委員会の開催

講演論文等を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。この後、ただちに事務局から座長に依頼をいたします。

5. 講演発表者には講演日時を 7 月末日までに到着するようご通知いたします。

6. 大会プログラムを学会誌 8 月号（Vol. 29, No. 8）に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。

7. 論文集予約申込書を学会誌 6 月号（Vol. 29, No. 6）に掲載します。お早目にご予約ください。

応募規程

I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
2. 発表は日本語または英語とします。

II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。
2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
3. 昭和 62 年度会費未納の会員は発表できません。
4. 電気、電子情報通信、照明、テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし、表彰対象者になりません。

III. 講演論文該当分野

1. 基礎理論および数値処理
 - a. 計算理論, b. アルゴリズム, c. ソフトウェア基礎, d. 数値計算
 - e. 数式処理, f. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
3. オペレーティングシステム
4. データベースシステム
5. ネットワークおよび分散処理
6. プログラミング言語とその処理系
 - a. 手続き型言語, b. 関数型言語, c. オブジェクト指向型言語
 - d. 論理型言語, e. その他の言語, f. 処理系実現手法, g. その他
7. ソフトウェア工学
 - a. 要求定義技法, b. 設計技法, c. プログラミング技法 (エディタ等), d. テスト技法 (デバッグ等), e. 支援環境, f. 開発・保守・運用, g. 品質・信頼性, h. 仕様作成・プログラム合成, i. その他
8. 自然言語処理
 - a. 解析および生成, b. 機械翻訳, c. 自然言語理解, d. 辞書・データ分析, e. テキスト処理, f. その他
9. 知識情報処理
 - a. 知識表現, b. 知識利用, c. 推論方式, d. 知識ベース, e. 問題解決, f. 知識プログラミング, g. エキスパートシステム, h. 知的インタフェース, i. 学習, j. その他
10. パターン処理
 - a. 文字認識, b. 音声, c. 図面処理, d. 画像処理, e. 画像データベース, f. 画像処理エキスパートシステム, g. ロボット, h. 画像理解, i. 画像計測, j. その他
11. デザインオートメーションおよびコンピュータグラフィクス
 - a. CAD, b. CAE, c. CAM, d. グラフィクス, e. シミュレーション, f. その他
12. オフィスオートメーション
13. 応用システム
 - a. 情報システム, b. ニューメディア, c. 教育への応用, d. 芸術への応用, e. 産業への応用, f. 社会への応用, g. 情報処理教育, h. シミュレーション, i. その他

IV. 申込方法

1. 発表を計画された時
学会誌本号みどりのページ掲載の「**全国大会講演発表用原稿用紙等請求書**」に必要事項を記入して申込むこと。
2. 講演論文を提出される時
講演論文 (本原稿) およびコピー, 講演発表申込書等を添えて申込むこと。
なお, 連続発表を希望される場合は, 別紙にて標題, 講演者名および発表順番を明記し, 申込書と原稿をまとめて送付すること。

V. 申込件数

1. 登壇発表は原則として1人1件とします。
2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です（ただし、論文集は1セットです。）。

VI. 申込料金

1. 1件につき、1ページ論文は**6,000円**、2ページ論文は**7,000円**です。
2. 講演申込書、論文等を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。

VII. 論文提出

1. 所定の原稿用紙を申込締切順に送付しますので、**6月15日(水)**までに必着するようコピー等と一緒に提出ください。
2. 論文は日本語または英語とします。
3. 論文抄録を「学会発表データベース（第一系）、学術情報センター」に入力することになりました。所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。
4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。
5. 論文提出後の訂正は原則としてできません。

ただし、やむを得ない事情で訂正をしたい場合は、**7月15日(金)**一日（午後5時まで）に限り、学会事務局2階にて訂正を受けれます。なお、郵便、電話等による訂正はできませんのでご注意ください。

VIII. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会（プログラム編成委員会）が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
2. 内容が商業宣伝に偏したもの（極端な商品名の引用には注意する）。
3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。
4. 応募規程に違反するもの。
5. 提出期限に遅れたもの。（次回への応募をお勧めします）

IX. 論文集の配付

発表者には大会当日受付けにて、論文集全冊をお渡しします。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の前に設けられた講演者控で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間を原則とします（都合により13分間のセッションもあります）。講演中でも時間切れで打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理(読)は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

(社)情報処理学会 全国大会係

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

第 37 回 全国大会講演発表用原稿用紙等請求書

1. 発表を希望する者は氏名，住所，請求部数を記入して申込むこと。返送用宛名用紙にも同様に記入のこと。
2. 原稿用紙等の送料として1組希望の場合は郵便切手170円，2組以上の場合は1組増すごとに70円添付のこと。
3. 申込みは本用紙のコピーを郵送のこと。
4. 本号掲載の実施要領をよく読んで請求してください。
5. 返信用封筒はいりません。

氏 名 _____

住 所 _____

請求部数 1 ページ発表…… _____ 組請求します。

2 ページ発表…… _____ 組請求します。

(切り取らずにお申込みください)

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> - <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	(氏名) (住所)
情報処理学会第37回全国大会 原稿用紙在中	
1 ページ発表	組
2 ページ発表	組
殿	

新年度にあたって（お願い）

——会費・購読費の納入、新会員勧誘など——

新年度にあたって、会員の皆さまに会費等の納入のお願いとともに、つぎの点につきご確認いただき、あわせてご協力のほどお願いいたします。

（1）63年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

1月下旬に会員個々に納付書（郵便振替用紙）を送付いたしました。未納の方は早急にご納入ください。

また、会費等の銀行等預金口座からの自動振替納入については、まだ申込みを受付けておりますので、所定の預金口座振替依頼書（63年度会費払込依頼書に同封）により、早急にお申込みください。

なお、自動振替は7月27日にいたしますのでご了承ください。

（2）大学学部卒業予定の学生会員の会費

本年3月に大学学部卒業予定の学生会員には、63年度会費は正会員（7,200円）として請求してあります。大学院修士課程に進まれた方は、学生会員として継続できますので、納付依頼書の記事を参照のうえ、会員番号を付し、大学院名・研究科名・専攻名、修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

（3）退 会

書面（様式任意、はがき可）にてお申出ください。なお、62年度会費が未納の場合には、昨年4月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

また、62年度会費未納者には、これまで再三にわたり請求いたしておりますが、このたびの請求によっても納付いただけない場合には、本学会から除名することがありますので、ご承知ください。

（4）学会誌の送本先変更

勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙（4月号、10月号に添付）にて会員番号を付し、早速にご連絡ください。

（5）論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は2月号に添付の申込書を使用して、お申込みください。

新入会員勧誘のお願い

4月は入会絶好のチャンスです。3月号末尾綴込みの入会申込書で、入会をご勧誘ください。

昭和 63 年度各種行事の予定について

4 月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。
なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご注意ください。

行 事	期 日	会 場
第 29 回通常総会	5・28 (土)	機械振興会館
第 37 回全国大会	9・12 (月)～14 (水)	立命館大学
第 38 回全国大会	64・3 中旬	(東京)
~~~~~		
(シンポジウム)		
計算機システムのヒューマンインタ		
フェース	4・13 (水)～14 (木)	機械振興会館
コンピュータアーキテクチャ	5・17 (火)～18 (水)	〃
利用者指向の情報システム	6・24 (金)～25 (土)	〃
1988 年夏のシンポジウム	7・21 (木)～23 (土)	静雲荘 (強羅)
第 21 回情報科学若手の会	(未定)	(未定)
設計自動化 (DA)	(9 月)	〃
グラフィクスと CAD	10・25 (火)～26 (水)	機械振興会館
教育における知的方法	11・10 (木)	〃
マイクロコンピュータの現状と将来	11・15 (火)	東京 (未定)
コンピュータ・システム	11・29 (火)～30 (水)	〃
音声・データ統合通信の実際	(11 月)	機械振興会館
アドバンスド・データベース	12・8 (木)～9 (金)	〃
知的プログラミング環境	12・13 (火)～14 (水)	〃
第 30 回プログラミング・シンポジウム	64・1・10 (火)～12 (木)	箱根・ホテル小涌園
並列処理	(1 月)	(未定)
(講習会)		
コンピュータグラフィクスの標準化動向	9・30 (金)	機械振興会館
~~~~~		
(共 催)		
昭和 63 年電気・情報関連学会連合大会	10・3 (月)～5 (水)	新潟大学
第 19 回画像工学コンファレンス	12・7 (水)～9 (金)	日経ホール
1989 情報学シンポジウム	64・1・18 (水)～19 (木)	日本学術会議講堂

本会協賛等の行事案内*

- | | |
|--|-------------------------|
| 第4回 知能移動ロボットシンポジウム
昭和63年6月13日(月)～14日(火) | 東京・機械振興会館 |
| 日本機械学会関西支部第158回講習会
昭和63年6月22日(水)～23日(木) | 大阪市立工業技術研究所 |
| 第1回 光波センシング技術研究会講演会
昭和63年6月23日(木)～24日(金) | 東京・野口英世記念館 |
| 第36回 産業用ロボット利用技術講習会
昭和63年7月21日(木)～22日(金)
7月28日(木)～29日(金) | 東京・機械振興会館
大阪科学技術センター |
| 色彩工学コンファレンス
昭和63年11月8日(火)～9日(水) | 東京・富士フィルム本社 |

*詳細は本号会議案内欄参照

夏のシンポジウム“卓上出版”に関する研究発表募集

パソコン、ワークステーション、大容量ディスク、レーザプリンタ、高解像度ディスプレイ、などの発達に支えられて、日本語による卓上出版 (desk-top publishing) がいよいよ現実のものになるようとしています。しかし、これを本当に定着させるためには、日本語入力ソフトウェアの高性能化、漢字の輪郭線フォントの実用化、ページ記述言語 (PDL) などの採用によるレーザプリンタやディスプレイのインターフェースの統一化、校正支援を含む編集用基本ソフトウェアの強化など解決しなければならない問題がまだたくさんあると思われます。

そこで、今年の夏のシンポジウムでは、卓上出版に関して現在行われている研究開発を、主としてソフトウェアの面からとらえ、いろいろな角度から討論しようということになりました。研究発表をお願いしたいテーマとしては、例えば、高機能日本語ワープロ/入力方式、アイデア・プロセッサ、漢字フォントの扱い、PDL、レーザプリンタやディスプレイの制御、日本語校正清書出力システム、マルチメディア出力、卓上出版用基本アルゴリズム/ソフトウェアなどがあります。

研究発表を希望される方は、1000字程度のアブストラクトを5月9日までに下記の幹事あてお送り下さい。その採否は5月末までにお知らせ致します。

- 日 時 1988年7月21日(木)午後1時から23日(土)午後1時まで
場 所 文部省共済組合箱根宿泊所(静雲荘)
箱根町強羅1320 [強羅駅より徒歩5分] ☎0460-2-2753
- 定員と発表件数 定員=50名 発表=約20件
[1件当り、発表25分+質疑15分、計40分]
- 会 費 ¥20,000(予定)[2泊6食、コーヒー、報告集代を含む]
- 報 告 集 終了後に原稿提出 [〆切=9月下旬、刊行=12月末]
- デモンストレーション
パソコン持込み可。卓上出版システムの実演を歓迎します。
- 研究発表申込 5月9日(月)までにアブストラクトを添えて下記へお送り下さい。
発表申込先 〒113 文京区弥生2-11-16
東京大学大型計算機センター 石田晴久
☎03-812-2111 (内)2731

IFIP CAPE '89 国際会議の論文募集

IFIP, 情報処理学会, 精密工学会の主催で来年 10 月に東京で標記国際会議を開催いたします。多くの方の論文寄稿をお願いします。

本国際会議は IFIP・TC5 の定例国際会議 (3 年に 1 回) です。1983 年にオランダで第 1 回を, 1986 年にデンマークで第 2 回を開催いたしました。参加国は約 30 カ国におよび, 水準の高い論文と密度の濃い討論により, 産業へのコンピュータ応用の国際会議として極めて高い評価を得ています。

正式名称 The 3rd International Conference on Computer Applications in Production and Engineering

和文名称 産業へのコンピュータ応用国際会議

会 期 1989 年 10 月 2 日～5 日

場 所 東京 京王プラザホテル

主 催 IFIP, 情報処理学会, 精密工学会

主なテーマ

- | | |
|-------|---|
| 基 礎 | 人工知能, 知識ベース, データベース, マンマシンインタフェース
数値シミュレーション, 幾何モデリング, FEM
マルチメディア処理, 画像処理, パターン認識
コンピュータグラフィクス, アニメーション
VLSI 技術, 新材料とデバイス, センサ |
| 主要技術 | 設計論, 製品モデリング, 参照モデル
CAD, CAM, CAE, CAT
工程設計, 生産管理, ロボット, モニタリング, 保守
システムアーキテクチャ, システムライフサイクル管理
通信手順, LAN, WAN, ネットワーク標準化 |
| 応 用 他 | エキスパートシステム, 産業における応用システム
MIS, CIM, 自動制御
ヒューマンファクタ, 社会への影響 |

論文募集要綱 (正式の call for papers は下記連絡先に請求してください。)

アブストラクト締切 1988 年 9 月 30 日

アブストラクト体裁 A4 サイズで 3～4 ページの英文アブストラクトの原稿 4 部。
なお, 表紙には論文のタイトル, 著者, 所属, 住所, 電話を記入すること。

査読結果通知 1989 年 1 月 30 日

最終論文締切 1989 年 5 月 1 日

連絡先 〒113 東京都文京区本郷 3-23-1

(財)日本学会事務センタ 国際会議事務局 CAPE '89 会議事務局

Tel. 03 (817) 5831 FAX 03 (817) 5836

第19回画像工学コンファレンス論文募集

画像工学コンファレンスは1970年の発足以来、関連学会・研究会の共通の研究発表、討論の場として、日本の画像関係の研究開発の発展に大いに寄与して参りました。本年も新たな発展を期し、第19回画像工学コンファレンスを開催することに致しました。また、'88国際画像機器展（日時：12月7日～9日，場所：都立産業貿易会館）を併催致します。奮ってご応募下さい。

日時 昭和63年12月7日(木)～9日(金)

場所 日経ホール(東京・大手町)

趣旨 画像工学は光学、エレクトロニクス、写真・印刷などの広い分野の技術に支えられ、学術・産業・医療・民生にわたる分野の発展に貢献しております。本コンファレンスは日頃活動分野を異にする方々が一堂に会して交流を図ることにより、画像工学分野の研究開発およびその応用をさらに活発化することを目的としています。

構成 招待講演と、応募による一般講演およびポスタ講演により行います。一般講演は、本会場で研究発表を行います。ポスタ講演は、ポスタ会場の決められた場所で図表、写真、実物等を示し、興味をもつ聴衆と自由に質疑、討論を交わしながら研究発表を行うものです。招待および一般講演につきましては「募集論文の内容」欄の項目に沿い約10セッションにまとめる予定です。また今回は特別セッションとしてパネルディスカッション「ニューロコンピュータと画像」(仮題)を予定しています。一般およびポスタ講演ともオーディオビジュアル機器などを用いたデモンストレーションができます。なお、ポスタ講演のなかで優秀な発表に対して賞を贈ります。

募集論文の性格 論文として未発表のものに限ります。ただし口頭発表や研究速報などは差支えありません。

募集論文の内容 画像の知覚・入力・記録・蓄積・伝送・表示・計測・処理・理解などの基礎・材料・デバイス・システム・方式・応用・評価に関連する内容を募集対象とします。

応募資格 特に資格を問いません。

応募論文の審査 応募論文はプログラム委員会において、申込時提出の内容概要で審査いたします。また、プログラム編成上、一般講演とポスタ講演との変更をお願いすることがあります。

講演形式・時間 一般講演：質疑応答を含め20分(予定) ポスタ講演：ポスタ会場での発表討議90分

講演申込方法 A4横書・図表などを含め2枚以内(800字程度)の内容概要と、必要事項を記入した講演申込書(コピーでも可)を下記の送付先にお送り下さい。(FAXでも結構です)

申込締切 昭和63年7月5日(火)必着

論文集原稿 採択論文については一般、ポスタとも、図・写真・表を含め7000字以内のカメラレディ原稿(タイプ又はワープロ)を提出していただきます。また、希望によりカラー印刷のページを設けます(ただし実費自己負担)。

原稿やスライドの作成方法などの詳細は8月上旬、論文採否通知とともに連絡します。

論文集原稿締切 昭和63年10月25日(火)必着

主催 第19回画像工学コンファレンス実行委員会

(担当 電子情報通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識理解研究専門委員会)

加盟学会・委員会 応用物理学学会・光学懇話会、テレビジョン学会・画像表示研究委員会・視覚情報研究委員会・画像通信システム研究委員会・画像処理画像応用研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光量子デバイス技術委員会、電子情報通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識理解研究専門委員会、日本ME学会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、日本医療情報学会、医用画像情報学会、計測自動制御学会・パターン計測部会、日本非破壊検査協会。

送付先・問合せ先 〒105 東京都港区浜松町2-12-14 第2日化ビル3階

「第19回画像工学コンファレンス事務局」 ☎03(433)2544

第19回画像工学コンファレンス講演申込書

題目		講演形式の希望	デモンストレーション機器
氏名		<input type="checkbox"/> ポスタ講演	<input type="checkbox"/> VTR
連絡先 (住所所属電話)	〒 ☎	<input type="checkbox"/> 一般講演	<input type="checkbox"/> マイコン・パソコン
	FAX	<input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> その他()
		<input type="checkbox"/> どちらでも可	<input type="checkbox"/> 使用しない
			持込み・借用

支 部 だ よ り

昭和 63 年度 支部総会について

各支部の通常総会が下記のとおり開催されますので、ぜひご出席ください。なお、各支部総会の案内状は、支部内の正会員各位に別途郵送されますが、ご欠席の場合には必ず委任状をご返送ください。

支 部	日 時	会 場	講 演 会
東 北	5月12日(木) 15:00~	東北大学電気通信研究所 大会議室	16:00~17:30 今後のコンピュータアーキテク チャの動向—RISC と VLIW— 穂積元一(日本 IBM)
九 州	5月13日(金) 13:30~	九州大学大型計算機セン ター多目的講習室(3階)	14:30~16:30 コンピュータチェスの発展史 松山公一(九州東海大)
中 部	5月19日(木) 14:00~	王山会館 (名古屋市千種区覚王山 通 8-18)	14:40~16:30 信号処理・画像処理の2,3の話題 鈴村宣夫(名工大) 情報とともに40年 福村晃夫(中京大)
北 海 道	4月26日(火) 14:00~	北海道大学工学部 情報工学科会議室	15:00~17:00 文章理解のモデルについて 桃内佳雄(北海学園大)
中国四国	5月13日(金) 14:30~	NTT 袋町ビル (広島市中区袋町 6-11)	15:00~16:30 知識処理技術の動向 村上國男(NTT)
関 西	(未 定)		

情報処理学会東北支部大会講演募集

——昭和 63 年度電気関係学会東北支部連合大会——

期 日	昭和 63 年 8 月 25 日(木), 26(金) 25 日(木) 午前・一般講演 午後・一般講演, 特別講演 夜・懇親会 26 日(金) 一般講演 25, 26 の両日 展示会(計測器, 電子通信機器, 電力機器, 最近のニューメディア ほか)
会 場	東北大学工学部電気系(仙台市荒巻字青葉)
講演内容	一般講演 各専門分野で最近行った研究の発表. 講演者は, 主催学会会員に限 る. 連名は会員以外を含むことも差し支えない. 講演時間は, 1 件 15 分以内 (討論時間を含む)とする.

- 申込方法**
- (1) 「講演申込書」は申出により「原稿用紙 1,600 字」「原稿の書き方」と共にわたす。郵送希望の場合は 1 部 170 円（2 部以上の場合は 1 部増すごとに 70 円増）の郵送料を添えること。
 - (2) 一般講演の予稿集はオフセット印刷とするので、必ず所定の原稿用紙を使用すること。
 - (3) 一般講演は、1 名 2 件までとする。ただし、連名は差し支えない。内容が著しく不適当と思われる場合、講演を制限することがある。
 - (4) 発表者は講演申込と同時に、必ず講演申込金として 1 件につき 3,000 円を添えて申込むこと。（論文集代、別刷 50 部代を含む）
 - (5) OHP を講演各室に準備する。（希望によりスライドも可）

申込・原稿締切日 7 月 4 日（月）必着厳守（申込書と同時締切とする）

論文集 発表者には、大会当日受付にて配付する。購入希望者は、所要部数を早めに申込むこと。（1 部 2,500 円、郵送料 1 部 500 円）

申込・問合せ先 〒980 仙台市荒巻青葉 東北大学工学部電気情報系学科内
電気関係学会東北支部連合事務局
Tel. 022 (222) 1800（内 4312）

懇親会 8 月 25 日（木）18:00～ 場所 仙台市内 会費 3,000 円
申込は当日大会会場で受付ける。

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」(月刊) および欧文誌 “Journal of Information Processing” (略称 JIP・季刊) は下記のとおり、有料頒布となっております。

新規に購読を希望される会員は下記の申込書(コピーにて可)にて、お申し込みください。郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は2月号159ページにあります。

年間購読料	会 員	非 会 員
論 文 誌	4,500 円	7,800 円
欧 文 誌	3,000 円	6,000 円 (海外 7,000 円)

昭和 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申し込みます。(該当欄を○で囲む) 会員 No. _____

1. 氏 名 _____ 会員 (正, 学生, 賛助)・非会員

連絡先 (〒 _____)

Tel. _____

送本先 (〒 _____)

注) 会員には学会誌の送付先に送本いたしますので、送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌 (申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入)

a. 情報処理学会論文誌 (____ 巻 ____ 号から送本希望)

b. 欧文誌 “Journal of Information Processing” (____ 巻 ____ 号から送本希望)

3. 送金の方法

¥ _____ 也をつぎによって送金いたします。(送金月日 ____ 月 ____ 日)

a. 現金書留 b. 郵便振替 c. 銀行振込 (____ 銀行宛)

4. その他 (学会事務局への連絡事項)